

平成 23 年度 京都府医師会勤務医部会 活動報告

1. はじめに

深刻な医師不足・偏在、勤務医の過重労働、さらには患者の権利意識の向上による医療訴訟の増加など、医療界は厳しい環境におかれている。さらに、医療安全対策、研修医の指導や自らの生涯教育のあり方など、勤務医を取り巻く問題は多岐に渡っており、いずれの問題もこのままでは放置できない状況となってきた。勤務医部会としては、この危機的状況を乗り切るためにも、勤務医部会を活動拠点として、種々の問題解決に向け積極的に取り組んできた。今後も一人でも多くの勤務医に医師会入会を訴え、開業医と勤務医とが一致団結し、叡智を結集することで、これら諸問題の解決に努力していきたい。

2. 部会員数

京都府医師会勤務医部会は、発足以来 28 年を迎えた。平成 24 年 1 月 1 日現在の部会員数は、1,735 名で昨年より 19 名の増となり、京都府医師会総会員中、41.3%を勤務医部会員が占めている。2 年連続の微増となったが、京都府内に従事する勤務医の約 3 分の 2 が医師会に未加入であることを考えると、依然、組織率が低迷していると言わざるを得ない。

<表 1> 過去 5 年間の勤務医部会員数の推移

年度	勤務医部会員	京都府医師会総会員数	%
平成 24 年	1,735 名	4,204 名	41.3%
平成 23 年	1,716 名	4,216 名	40.7%
平成 22 年	1,695 名	4,206 名	40.3%
平成 21 年	1,699 名	4,210 名	40.3%
平成 20 年	1,739 名	4,247 名	40.9%

※基準日：1 月 1 日現在

3. 部会役員に関する件

森勤務医部会長のもと、幹事長に内藤和世氏、副幹事長に日下部虎夫氏、吉田憲正氏、紀田康雄氏、にご就任いただいた。平 22・23 年度の役員は以下のとおり。なお、任期は平成 24 年 3 月 31 日まで。

役職	氏名	医療機関	備考
部会長	森 洋一	森小児科医院	
幹事長	内藤 和世	京都市立病院	
副幹事長	日下部 虎夫	京都第二赤十字病院	
〃	吉田 憲正	京都第一赤十字病院	
〃	紀田 康雄	第二岡本総合病院	
幹事	白方 秀二	社会保険京都病院	
〃	安田 健治朗	京都第二赤十字病院	
〃	相良 幸彦	堀川病院	
〃	新谷 弘幸	京都市立病院	
〃	吉波 尚美	京都市立病院	
〃	吉岡 秀幸	京都通信病院	
〃	盛房 周平	洛和会丸太町病院	

"	清水 聡	京都南病院	
"	三宅 正幸	武田病院	
"	齋藤 信雄	NTT西日本京都病院	
"	江川 晴人	日本パプテスト病院	～H23.12
"	木村 格	日本パプテスト病院	H23.12～
"	若園 吉裕	京都桂病院	
"	宮崎 博子	京都桂病院	
"	水野 雅博	三菱京都病院	
"	巨島 文子	京都第一赤十字病院	
"	閑 啓太郎	愛生会山科病院	
"	武内 俊史	洛和会音羽病院	
"	近藤 摂子	洛和会音羽病院	
"	橋本 哲男	医仁会武田総合病院	
"	秋山 祐一	京都医療センター	
"	山本 美保	京都医療センター	
"	北村 浩二	済生会京都府病院	
"	門田 一宣	宇治武田病院	
"	蔭山 典男	宇治病院	～H24.2
"	新井 正弘	公立山城病院	
"	森竹 浩三	亀岡シミズ病院	
"	塚本 賢治	公立南丹病院	
"	鴻巣 寛	綾部市立病院	
"	上野 たまき	綾部市立病院	
"	太田 努	市立福知山市民病院	
"	富士原 正人	京都ルネス病院	
"	布施 春樹	舞鶴共済病院	～H23.12
"	竹内 一雄	舞鶴共済病院	H23.12～
"	法里 高	舞鶴医療センター	
"	関本 達之	府立与謝の海病院	
"	福田 和彦	京都大学医学部附属病院	
"	小川 修	京都大学医学部附属病院	
"	大越 香江	京都大学医学部附属病院	
"	内藤 裕二	京都府立医科大学附属病院	
"	阪上 順一	京都府立医科大学附属病院	
"	外園 千恵	京都府立医科大学附属病院	

4. 幹事会・正副幹事長会の開催

23年度は2回の幹事会と2回の正副幹事長会を開催し、職場環境やキャリアパスの問題点、総会の運営等について協議した。

開催日	会合名	協議事項
2011.6.11	幹事会	(1)「勤務医通信」への執筆 (2)平成23年度全国医師会勤務医部会連絡協議会への出席 (3)平成23年度勤務医部会総会の開催 (4)平成23年女子医学生・研修医をサポートする会の開催 (5)フリーディスカッション
2011.10.17	正副幹事長会	(1)平成23年度勤務医部会総会の開催 (2)勤務医部会幹事会の進め方
2012.1.7	幹事会	(1)平成23年度勤務医部会総会の開催 (2)フリーディスカッション
2012.1.30	正副幹事長会	(1)平成23年度勤務医部会総会の開催 (2)次期、勤務医部会への引き継ぎ事項

5. 女性医師ワーキンググループの開催

勤務医部会では、女性医師支援策の具体的な検討を進めるために、女性勤務医8名を幹事として委嘱し、女性医師WGを設置し、今年度は2回開催した。

開催日	会合名	協議事項
2011.6.11	女性医師WG	(1)平成23年度女子医学生・研修医をサポートする会
2012.1.7	女性医師WG	(1)平成24年度女子医学生・研修医をサポートする会 (2)院内保育ネットワーク

6. 女子医学生・研修医をサポートする会の開催

女性医師のキャリア形成や就労支援についての見識を深め、意見交換する場として、下記のとおり第3回女子医学生・研修医をサポートする会を開催した。

とき 2011年11月5日

ところ 京都府医師会館

講演 「泌尿器科女性医師の現状□もし女性医師が泌尿器科を選んだら□」

東京女子医科大学東医療センター

骨盤底機能再建診療部教授

巴 ひかる 氏

「“おもしろ おかしく”働きませんか!？」

(株)堀場製作所管理本部人事担当副本部長

野崎 治子 氏

パネルディスカッション

「仕事も家庭も □私の場合□」

京都大学大学院医学研究科放射線医学講座

放射線診断科特定助教

木戸 晶 氏

「本学小児科における女性キャリアパスの現状と展望」

京都府立医科大学小児科教授

細井 創 氏

「支えられて働く □勤務医の立場から□」

京都市立病院産婦人科

大井 仁美 氏

「ワーク・ライフ・バランスの今」

洛和会音羽病院長

松村 理司 氏

出席=49名

7. 府医各種委員会委員等への推薦

今期、勤務医部会から府医各種委員会の委員として下記3委員会に3名の幹事を推薦し、各委員会にて勤務医の意見が反映されるよう意見具申していただいた。

- 医業経済・融資幹旋委員会 紀田 康雄 副幹事長
- 広報・情報・企画委員会 巨島 文子 幹事
- 学術・生涯教育委員会 日下部 虎夫 副幹事長

また、勤務医部会員数が府医会員総数の40%以上を占める中で、府医代議員107名中、勤務医の代議員数は4名、京大および府立医大の計4名を加えても計8名と、その比率は7%であり、勤務医の意見が府医の会務執行に届きにくい状況といえ、この点は今後の課題と言える。

8. 京都府医師会への入会促進

京都府医師会入会促進事業の一環として、勤務医向けの入会パンフレットを作成し、各方面で配付した。

9. 乳がん検診などへの出務医師の派遣

地域医療活動として、京都府医師会乳がん検診委員会との合議のもと、出務医師の派遣を行っており、今年度は京都市内（1地区）において勤務医を派遣した。

10. 第37回京都医学会への演題発表

2011年10月2日（日）に開催された第37回京都医学会では勤務医から84題もの演題発表があり、医学会を盛り上げた。

11. 京都医報「勤務医通信」欄への投稿

京都医報内に「勤務医通信」コーナーを設け、幹事の先生方に執筆をお願いしてきた。テーマは執筆者の自由としており、勤務医の生の声として執筆いただいた。

12. 全国医師会勤務医部会連絡協議会への参加

2011年10月29日(土)、富山県富山市で開催された平成23年度全国医師会勤務医部会連絡協議会(富山県医師会主管)に内藤幹事長および紀田副幹事長、上田担当理事、事務局が参加した。協議会はメインテーマを「勤務医の働き方と生きがい(よりよい就労環境を求めて)」とし、日医・大学病院・基幹病院・女性医師・弁護士等、異なった立場の演者より勤務医を取り巻く諸問題について発表があり、フロアからの質疑応答も含めて、活発な議論がなされた。なお、協議会当日には「富山宣言」が採択された。

富山宣言

地域医療・急性期医療などを担う勤務医の役割は日増しに高まっている。しかしながら、その就労環境の厳しさは旧態依然としており、勤務医離れはとどまることなく、残された勤務医に更なる過重労働を強いる結果となっている。そのような状況にあっても、東日本大震災では勤務医は率先して医療活動に加わり多くの被災者に医療を提供してきた。医療は公共のものであるという認識を踏まえ、勤務医の疲弊をこれ以上に増やすことなく、個々の能力を遺憾なく発揮できるよう就労環境の改善に向けて次のことを宣言する。

一、勤務医は各々を尊重し助け合い、医療活動のみではなく医政活動にも積極的に参加し、医療が崩壊の危機にあることを広く社会にアピールしていくこと。

一、我々医師は、より良いワークライフバランスを求めて、女性医師のエンパワーメントを促し、男女共同参画社会推進におけるリーダー的存在となること。

一、政府は医療費抑制策を改め、医師の養成・確保に真剣に取り組むこと。

一、政府・病院開設者は、勤務医が医師の使命感に基づいて過重労働を耐え忍んでいる現実を理解し、早急に就労環境の改善に着手すること。

平成23年10月29日
全国医師会勤務医部会連絡協議会・富山

13. 都道府県医師会勤務医担当理事連絡協議会への参加

2011年11月30日(水)、日本医師会館で平成23年度都道府県医師会勤務医担当理事連絡協議会が開催され、担当理事と事務局が参加した。協議会では「震災における活動を通じた医師の協働」をメインテーマに、東京・石川・岐阜の医師会より勤務医活動報告が行われた後、各都道府県より東日本大震災での活動と問題点の報告がなされた。

平成 23 年度（第 28 回）
京都府医師会勤務医部会総会

と き 2012 年 3 月 3 日（土）午後 3 時 30 分～ 6 時 10 分
ところ ホテル日航プリンセス京都

I. 総会

1. 開会挨拶
2. 平成 23 年度勤務医部会活動報告

II. 特別講演

座長／京都府医師会 勤務医部会幹事長 内藤 和世 氏

「勤務医の処遇改善」

独立行政法人 国立がん研究センター 理事長 嘉山 孝正 氏

III. パネルディスカッション

「未来の勤務医像について」

総括者 嘉山 孝正 氏、内藤 和世 氏

パネリスト 「一勤務医としての挑戦□ 京都から脳梗塞治療を変えていきたい□」
京都第一赤十字病院 急性期脳卒中センター副センター長

救急部 副部長 今井 啓輔 氏

「勤務医を守れ□ 病院管理職の役割について□」

京都第二赤十字病院 外科 藤 信明 氏

「京都北部より□ 勤務医時代の出産&子育て経験の報告□」

いなば眼科クリニック 院長 稲葉 純子 氏

IV. 閉会挨拶

V. 懇親会